「人類の知の遺産(第IX期)

酒井 孝(担当・運営委員)

第1講 5/11(日) [河合隼雄]

講師:河合 俊雄

(心理学者・京都大学こころの未来研究センター教授)

やはり、長男として長年 寄り添った者のみから醸 し出されるもの、としか 表現できない話であった。 中沢新一は「あの体のフォ ルムとそこから出てくるあ の声やその声の語るジョ ークを受けとめて、自分の 心の本来あるべき状態、 バランスの取れた状態が どういうものか、不思議な



メッセージを受け取っている」と評する。最も感銘し たのは、発達障害における主体の確立のイメージは、 必ずしも自我主体ではない。「自我主体的で自発的に 自分の自由意志から」と「自然発生的に、ひとりでに」 という両面が含まれる。つまり、「じねん」に従う、との こと。

第2講 6/14(土) 山口昌男」

講師: 今福 龍太

(文化人類学者:批評家:東京外国語大学大学院教授)

講義は、山口昌男と非 常に濃く長く、身近に接 した人間ならではのもの であった。大江健三郎も 指摘した、現代社会・政 治とのクールな関係につ いては、準備くださった 資料からも匂い立つよう に伝わった。また、「群島 響和社会〈平行〉憲法」よ り、味わい深い一縞を。



「万物の高次な理法のなかにあらかじめ組み込まれ た〈謎〉や〈未知〉の存在こそ、深い叡知の源泉である。 理性によって了解可能な〈既知〉や、それを断片化し て整序した〈情報〉に権威や全能性をあたえてはなら 第3講 7/5_(土) 「マックス・ウェーバー

講師:大澤 真幸

(社会学者:元京都大学教授)

いきなりサッカーと「不 思議なキリスト教」との 話。サッカーはラテンアメ リカやスペインおよびイタ リアで盛んだが、非ラテ ンの国 (北米・アジア・イ スラム諸国)ではそれほ どではない。ポイントはオ フサイド。 サッカーにおけ る快楽とは、ゴール=「終 わり」へと到達すること。



「終わり」へと至る過程を引き延ばすことによって、「終 わり」に到達したときの興奮を倍増させる。しかしアメ リカで好まれているアメリカン・フットボールやバスケ ットボールには、オフサイドがない。アメリカ人は「終 わり」を遅延することを好まない。それは資本主義の 有り様と近似している。……サッカーを題材にウェーバ 一の哲学が語られた。

2014年度ゼミナール報告

主催ゼミ 島薗ゼミ 「国家神道を捉え返す」

(6/6、7/4、7/25(金)

加藤一郎(担当・運営委員)

『国家神道と日本人』(岩波新書2010) ですでに国家神道を総 合的に分析された島薗先生が、今回の東京自由大学の講義で用 いた新たな切り口は「教育勅語」と「軍人勅諭」であった。 それらは太平洋戦争にあたり、庶民や元武士らを把握しコント

ロールするのに効果があったと考えられているが、決して一方通 行ではなかったようである。 それを上、つまり政治家らがどう利用したかという見方だけで

なく、それを下、つまり庶民や元武士がどう求め受け入れたのか という見方も必要なのである。

父母や藩主などをトップとしたこれまでの社会の構図を、「教育 勅語 | と「軍人勅諭 | によって、そのまま国における天皇をトップと したものにすり替えようという試みが、乾いた土地にまいた水が 吸い込まれるように庶民や元武士に受け入れられたのである。

「教育勅語」も「軍人勅諭」にしても内容はたいしたものではないが、これらには文化大革命 で皆が振りかざしていた「毛沢東語録」と同じような役割があったのかもしれない。

この度、東京自由大学設立時から数えて5人目の事務局長として就任いたしました。前

依然、財政が厳しい状況ですが、皆様のご参加が支えになります。よろしくお願い申し

事務局長の井上喜行さんには事務局長補佐として助けていただきながら務めて参ります。

空海解明ゼミ「新釈『宗旦狐』」 秀吉と利休の黒をめぐる相克 ―

8/3(目)

井上 喜行 (担当・運営委員)

宗旦狐の伝承を空海研究の視点で読み解く、千家再興の知 られざる秘話。侘茶の大成者千利休の孫宗旦に化けた白い老 狐、その好物ネズミの天ぷらとは千家の禁忌・権力への接近 であるという。ネズミ=子を陰陽五行で説き、鉄王信長とタタ ラ師の隠喩「禿ねずみ」秀吉との主従関係を、比叡山と伏見稲 荷大社の鉄の子午線で結ぶ。

伏見稲荷大社の象徴・火焔宝珠とは、空海が稲荷山に埋めた 三個の如意宝珠であったが、宗旦はそれを意匠化し「つぼつぼ」 紋として家紋とした。つぼつぼに秘された千家の再興と繁栄へ の野望。利休の人脈と宗日の伏見稲荷への熱狂的な信仰から 千家秦氏説という大胆な推論まで展開されたが、講師の空海に 倣うがごとき数珠つなぎの論法には思わず圧倒される。

そして現在、なんと宗旦狐は千家の家運を衰退させた張本 (高野山大学密教研究会研究員) 人・豊臣秀吉の菩提寺高台寺の塔頭、円徳院に拉致されてい る……という見事なおち。

会場: 東京ビッグサイト(西1・2ホール)

宙マンダラ」(BNP)という海野宇宙学の総決算の著作が出版された。

コロキウム

続編に乞うご期待。

郎先生を中心に行った。



講師: 宮田 弘子氏

講師:島蘭 進氏

東京大学名誉教授)

事務局だより

トげます。

(宗教学者・上智大学 グリーフケア研究所所長・

「水を体感する・滝行」

鳥飼 美和子(担当・運営委員長)

2001年、初めて滝行を行ったときに、サブタイトルとして「セ ンスオブワンダー」と名付けた。

滝という日常から離れた環境であらたな感覚を開き、リフレッ シュし、内なるエネルギーを活性化したい、という願いであった。 毎年の滝行を楽しみで、欠かせないという方が「この滝行が自 分にとっての毎年の大祓である」と言われた。

初夏の緑と滝の水で、年の半ばの祓とする、それは、まさにこ の滝行を行い続ける意義であり、功徳でもある。

先達の方々、参加者の皆さん、天照山神社の方々に感謝いたし ます。



■編集後記 宮山 多可志(事務局長)

岡野 惠美子(副運営委員長)

7月30日(水)~8月1日(金)

井上 喜行(担当・運営委員)

東京自由大学は設立以来、月1回開催する運営委員会で平等に自由に意見を出し合い、 より面白くより良い企画を協議し組み立ててきました。来年度のカリキュラムも現在進行 形で構成されつつあります。ご期待ください。

今年、11月16日(日)のビッグイベント・三省祭りは、多彩な充実したプログラムで一日 を過ごしていただけるよう準備していますので、ぜひご来場ください。

第9回再生可能エネルギー世界展示会展示参加

今年度もアカデミックギャラリーの1ブースでNPO法人東京自由大学として「フレネル型と

毎月2回のコロキウムは海野和三郎学長を中心に実施、10月2日の89歳の誕生日には「宇

リニアフレネル型太陽熱発電システム」についてパネル展示とパンフレットの配布を大木健一

●http://jiyudaigaku.la.coocan.jp/ ●E-mail: jiyudaigaku@nifty.com

Newsletter Vol.23 2014年(平成25年)10月XX日発行

編集・発行 NPO法人東京自由大学 / 事務局 〒101-0035 千代田区神田紺屋町5 T.Mビル2F TEL&FAX: 03-3253-9870 デザイン (有) アンビエンス / 印刷 (株) ベクトル

NPO法人東京自由大学 Newsletter 2014.10

「世直し講座」

山口 卓弘、岡野 恵美子(担当・運営委員)

4/26(土) 序論・マニフェスト「東京自由大学の世直しとは」

鎌田 東二(東京自由大学理事長) × 海野 和三郎(東京自由大学学長)

鎌田理事長から東京自由大学の設立趣旨(1998年11月25日記)、設立以前からの成り立ち、東京自由大学に影響を与えた先行思想・運 動などが詳細に説明された。当初から今まで一貫して世直しをひたすら探求してきたが、世直しは顕在と潜在の両面が密接に結びついて おり、顕在的な講座、シンポジウム等の活動と共に、潜在的霊性・心直しとして仏道ゼミ、ヴィパサナ瞑想等両面を網羅し開催してきた。 世直しと自分自身を変えることはダイナミックな関係にあり、死後を含め悠久の生命の歴史を鳥瞰的、超越的まなざしで眺め、自己形成 していくことが肝要になる。初代学長の横尾龍彦先生が芸術家、2代目の海野和三郎学長が天文学者であることは、1999年2月20日の 設立第1回シンポジウムのテーマ「ゼロから始まる芸術と未来社会」に図らずも合致する根幹的象徴となった。海野学長の唯一の関心 事は「人類の命運、危機」であり、化石燃料から脱するエネルギー問題の解決法として「簡易16倍集光太陽熱発電」を推奨、研究してきた。 東京自由大学の次世代を担う辻信行さんは、未来の世直しは、地球と人間が互恵的贈与関係でありたい、と言われ世直し講座の力強い 継続発展が予感された。



5/24(±)

「21世紀の覚醒のネットワーク」

上田 紀行(文化人類学者·東京工業大学教授)

『責任を取る』という言葉は、 一般的に『過去』に対しての責 任というイメージがある。しか し、上田先生が強調したこと は、『未来に対しての責任』と いうことである。パワースポッ トやスピリチュアルなことに関 する人々の関心が、少しブー ムになっている。それ自体は、



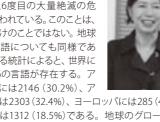
一概に悪いとは言えないが、『私だけが救われればよ い』・『私だけが癒されればよい』ということになると、 問題が生じることがある。日本人は一般的に『個』が 弱い。社会的な同調の圧力が強まれば、すぐそちら側 の色に染まってしまう。バブル崩壊後、日本人の価値 観は単線化した。それ以前は「徳」の道と、「得」の道 の両方が存在した。今は「得」の道だけになった。『21 世紀の覚醒』の中心の一つに、『未来に対しての責任』 の項目をぜひ置きたい。

6/21(±)

「アジアの言葉、人類の言葉」

イ・ヨンスク(社会言語学者・一橋大学大学院教授)

生物多様性がかつてないスピ ードで失われ、現代は、地球の 歴史上6度目の大量絶滅の危 機と言われている。このことは、 生物だけのことではない。地球 上の言語についても同様であ る。ある統計によると、世界に は7106の言語が存在する。ア フリカには2146 (30.2%)、ア



ジアには2303 (32.4%)、ヨーロッパには285 (4%)、太 平洋には1312 (18.5%)である。地球のグローバル化 の流れの中で、21世紀には、7106の言語の半分が消 滅するのではないかと危惧されている。一つの言語に は、それに固定した世界観が必ず存在する。グロー バル化の世界では、大言語(話者人口が多い言語)を、 身に付けた方が生きやすいという考えもあるが、それ によって永遠に失われてしまう叡智もあるのではない だろうか。

7/12(±)

「地球の声を聴く」

原田 憲一(地球科学者·元京都造形芸術大学教授) ×海野 和三郎(東京自由大学学長)

地球の自然は、『自動機械』の ように規則的に変化している のではない。つまり、物理法則 でそれを完璧に説明すること は不可能なのだ。自然は『揺ら ぎこそ本質』なのです。地球は 今、美しい。多くの宇宙飛行士 が、「地球だけは、いつまで見 ていても見飽きない」という感



想を述べている。そして宇宙も、今が一番美しい。そ こに人間が生まれてきた。その人間も本来は美しい存 在になれるはずだ。ベンサムの言った「最大多数の最 大幸福」は、間違いだ。その考え方は「現在生きてい る自分だけが、幸せになればよい」という価値観につ ながる。その「エゴ肯定理論」を越えた価値観を将来 世代に、どうやって残せるか。また、それが無理だとし ても、そのヒントくらいは残せるのではないだろうか。

「震災解読事典 ~3・11の過去と未来を読み解く~」 前期の講座を終えて

辻 信行(担当·運営委員)

○はじめに

2年目を迎えた震災解読事典。薄れゆく被災の記憶をつなぎとめ、私たちはどのよ うな未来を創造できるか。ここでは前期に開催した第七章~第九章を報告する。

第七章: 5/17生) 「震災と社会と経済」

開沼さんは世間に溢れる安直な言葉を疑ってゆく。 たとえば「復興が遅れている」と言うが、具体的に何 が遅れているのか? そもそも復興とは何か? ここで 問題となるのは、福島への思い入れが強い人でも、き ちんと現状を理解していないということだ。それが原 因の一つとなって、現地の生活コミュニティは立ち直 れていない。「復興の遅れ」を嘆き続けて思考停止に なるのではなく、①具体的な課題を洗い出し解決策



講師: 開沼 博氏(社会学者)

まで落とし込む ②各論に留まらず全体像を明らかにする ③先行きを見せつつ、しか し急がないことの三点が重要だと言う。エビデンス・データに基づいた実証的な話に、 説得力があった。

第八章:6/28(土) 「震災とメディア」

スーザン・ボイルのオーディションはやらせだったと、森さんはまず指摘した。情報を 主体的に受け取り、批判的に、だまされないように見るメディア・リテラシー能力が必 要だ。人類はメディアを手に入れ、初めて全体主義を手に入れた。そうして可能になっ たプロパガンダをナチスが利用し、その延長に3.11の 震災報道がある。メディアは市民を国家権力から守ら なければならないのに、被災地の遺体を写さない。反 原発デモを報道しない。メディアの原則には欠陥が多 く、「両論併記」もその一つだ。Aの反対がBとは限らな いし、Aと言う人とBと言う人の数は、圧倒的な差がある かもしれない。メディアに接する時は、常に能動的で なくてはならないと痛感する講義だった。

第九章:7/19生 「震災と〈東北〉」



講師:森達也氏 (ドキュメンタリー映画監

〈東北〉、そこは稲作ナショナリズムにより穀倉地帯化された植民地。

〈東北〉、そこは植民地の自覚がないまま共同体を引き裂 かれたヘテロトピア。「〈東北〉は、世界中に遍在します。そ れはかつての水俣であり、現在のウクライナです」。山内さ んは静かに熱をこめて語る。自身は南三陸町の稲作農家に 生まれ、高校卒業後は町の臨時職員として勤務。その後、 一念発起して慶應義塾大学に入学した。質疑応答の時間、 「〈東北〉の外にいる人に、どうしたら当事者意識を持って もらえるでしょう?」という問いが出た。「根っこを掘ってゆく と、全てが結びつくということに気付いてもらえたらと思い ます」。山内さんならではの答えだった。



講師:山内 明美氏



「"ふるさと" |

菜花 英子(会員)

月見草 負けてたまるか 原発に

「祈りの旅」 木村 はるみ(会員)

今頃、仮設住宅で出会った人たちは、あの小部屋にふとんを敷いて寝ているの だろうか。

あたりには虫の声が聞こえ、そろそろ秋から冬へ向かう東北の空は木は海は、 どんなだろうか。今回の合宿では、たくさんの人と出会った。その人たちのこころ は今、明るく温かくあるだろうか。一緒に寝泊まりした人たちの笑顔や寝顔、朝の 会話や食堂へ行く廊下の会話、バスの窓から同じ風景を見て共感し、交わした言 の葉たち。旅は楽しい。

仕事の関係で一日遅れて参加した合宿でした。震災後の東北には何としても行 きたかった。

自分一人ではとても企画できない「祈りの旅」でした。三陸の自然美に酔う和や かな旅行でもありました。訪れた各地の神社・仏閣・宗教・祈りの場で聞いた鎌 田先生の石笛は、次元を超えて死者たちの世界にも響きわたる澄んだ鎮魂の音色 でした。こんな神聖な旅があるのですね。ご準備いただいたスタッフの方々あり がとうございました。オプションの早池峰神楽も素晴らしかった。遠野のごはんは 美味しかった。オシラ様の本物を見て感動。いただいた沢山の資料は、これから 活かさねばと思っています。「東北」を忘れないために。

「大震災から3年を経て」

日高 喜美子(会量)

大震災から3年過ぎあんなに大きな震災だったのに私たちはだんだん忘れかけ てきている……

今回の旅はその現実をまたあらたに思い出させてくれた旅でした。

特に福島浪江町の体験は自由大学鎌田先生だから出来る事であって本当に考 えさせられる事が多く貴重な体験でした。自分の感じた体験をどのような形で他 の人々に伝えていけば良いか……

まずは少ない人数でもいい自分の身近な周りの人から自分の感じた体験を話し て行こうと撮った写直を見せながら今伝えています。

津波は天災でも復興できない福島の原発の地域は人災と言わざるを得ません。 それが分かっていても原発を再起動する日本政府の考えが本当に甘い、これか らどんな災害が来るか誰にも分からない、もっと大きい災害が来る可能性も考慮 するなら再起動はあり得ない。

私の3回目の自由大学の合宿、いつもたくさんの知恵と体験を与えてくれる自由 大学の合宿に感謝いたしております。

鎌田先生はもちろんですがそれを支えているスタッフのみなさん、

そして岡野さん、鳥飼さんなくてはできないことだったと本当に感謝、感謝です。 今後も参加していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

「被災地の今

庄子 健一(一般)

怪しいところに来てしまったかもしれない。初めて東京自由大学に関わりを持 った時、ぼくは率直にそんなことを感じた。今はそうでもないと思うし、慣れっこ になってしまったけれど、全身緑のコーディネートをしたおじさんが突然ホラ貝を 吹き始めたら、そう思うのはぼくだけじゃないはずだ。そもそもぼくは鎌田東二と いう人物を知らなかった。ぼくはただ東日本大震災のことが知りたかった。

ぼくは東北出身者ではないけれど、東北という土地にはたびたび縁がある。

二〇一二年以降、被災地に訪れることがほとんどなくなってしまったことがずっと 気になっていたぼくにとって、この合宿はこれ以上にないくらいうってつけだった。 しかし、それは三年半も経った今も、東北の地が癒えない傷を抱えているという 現実を見せつけられることでもあった。

人の手が離れてしまった浪江町、巨大な防潮堤が作られている仙台平野、更地 化だけの女川町、山の土をベルトコンベアーで海岸に運ぶ陸前高田市、復興が「計 画」のままで立ち止まっている大槌町。山に重なる海岸、森の中を走る道。新鮮な 海や山の幸、荘厳な神楽の舞とともにそれらを味わい、自然とともに生きるこの 土地が災害に見舞われるのは宿命だということを示された。しかし、その土地に あるのはただの記号や数字ではなく、ぼくらと同じ、生身の人間だ。

「津波があったまま、片付けすらできてない家がたくさんあるんですよ」

「被災を『ネタ』にできるくらいにはなりました」

「頑張れって言われても、もう十分頑張ってるんです」

あれから三年半。東京にいると、被災地のことに触れることはあまりない。けれ ど、実際に東北の地を巡っていると、ただぼくらが被災地を「見ない」ようにして いるだけなのだと思える。気にしてくれるだけで十分ありがたい。被災地でよく耳 にする言葉の意味が、今のぼくには以前より少しわかった気がする。

被災地に向けてなにができるか。この命題に対して、今ぼくができる最初のこ とをここに書き記しておく。

「夏合宿俳句二句」

石田 八重子(会員)

慰霊碑に 般若心経 秋の浜 復興の 道のり遠き 秋暑かな

「手のぬくもり」

小西 早苗(会員)

今年になって、1冊の本にであった。『瀬織津姫物語』。 なんてきれいな名前なん だろう。と、読んでみると、縄文の女神、水、川、滝、桜の女神、龍神、祓い清めの神、 とある。大祓詞にも、でてくる。さらにもう1冊、『エミシの国の女神、早池峰、遠野 郷の母神=瀬織津姫の物語」菊池展明著も、読んだ。遠野、早池峰への思いが、 つのっていました。そんな折、この被災地を、巡る祈りの旅と、早池峰神楽のこと を、教えていただき、福島から遠野への海沿いにバスで巡る、壮大な旅に、参加 できたことは、本当に忘れられない、思い出と、なりました。

鎌田先生の、初めての本、『水神伝説』、京都、貴船を、舞台にされた、水の神の 物語を、なぜか旅行カバンの中に入れていました。やはり、水の神、瀬織津姫様が、 そうさせたのかもしれません。この本は、須田郡司さんが、言われたとおり、すご い本です。魂が、震えます。皆様にお話しができてよかったと思っています。

震災後、3年半が経ち復興のきざしが、トラックの土を、運ぶ車の音で、感じたり もしますが、なかなか、心の傷は、癒えないと思います。岩手の大槌町の仮設住 宅に寄せてもらった時、ぶどうなどをだしてくださり、やさしく、でも、凛としたお ばあさんたちとした握手の手のぬくもりが、今もわすれられません。ひまわりが、 大きく、そこ、ここに、咲いていましたね。お元気かな。また、お会いしたい気持 です。思い出すと、涙が、出そうになります。本当に温かく、迎えてくださって、あ りがとうございました。サンガ岩手の吉田律子さま、何かお役にたつことがあれば、 と思います。連絡してみます。

火山の噴火もあり、突然の大地の力になすすべもない、人間の弱さを、又、知 る事と、なりました。たくさんの犠牲者が、でることは、つらいですね。でも、次に、 どこで何が、あるのか。何があっても、おこっても、おかしくない、時、を、今、人は、 生きていると、思います。全力で。ひとときの、安らぎと、幸せを、もとめて。

早池峰神楽も、すごかった。雄勝法印神楽の伊藤博夫さんのお話もよかった。

訪れた、1つ、1つの、場所に、愛着と、懐かしさをおぼえます。

いろいろ、下準備してくださった、鎌田先生、岡野恵美子様、鳥飼美和子様、東 京自由大学の皆様、仲良くお話してくださった皆様、本当に有難うございました。

「人魚姫の痛み」

中村 紀子(会員)

夏合宿から帰ってきたころ、原発事故によって自宅からの避難を余儀なくされ、 その後焼身自殺をした女性の家族を原告とした訴訟の判決が出た。裁判の過程 で、被告側が「個体側の脆弱性も影響していると考えられる」という発言をしたこ とを知り、胸が重くなった。「死んだのはそいつが弱かったからだよ」。己れの正当 性を主張するために、そんなことを言うものなのか。

人魚姫のことを考える。

社会と自然が溶け合った体を持つ彼女たちにとって、自然から離れることは半 身をもがれること。意図して離れるのなら、薬を飲んで苦しい思いをしても納得 できるだろう。私もきっと、そのようにして遠い昔に痛みを引き受けて全部が人に なった人魚の子孫なのだと考える。でも二本の足で歩くうちに、半魚の祖先がい たことを忘れてしまった。そういう人がいることも忘れてしまった。でも今も人魚 たちはいる。どんなに自然に打ちのめされても、「海に出ねとうまぐね」といって自 然の中に帰っていく人たちがたくさんいる。

大きな山を崩した地に住んでいる私には、現在進行形で大きな山を崩して安全 な場所を造ろうとしている人の営みを非難することはできない。それで安全になる 可能性もあるのだろうとも思う。しかし同時進行で、選択肢もなく生地から引き離 された人魚たちは、いま上半身と下半身をゆっくりとひねりちぎられている。その 激烈な痛みに耐えられないことを、「脆弱」だなどと誰が言えるだろうか。

前回から2年経ち、苦悩が深くなる人々の顔と姿に出会ったからといって、何が できるわけでもない。でも知らないよりいい。たぶん、きっといい。そう思うよりほ かない。

たいへん得難い体験をいただきました。鎌田東二先生、鳥飼美和子さん、岡野 恵美子さんに心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

「三・一一を巡る祈りの旅」

金井 重(会員)

一面の夏草のなか千羽鶴の卒塔婆の立つかたまりありぬ 波のごと寄せくる夏草みぎひだりに舟傾むきて動かざりけり

(於 浪江町(帰宅困難地域))

北上川渡りて山門にたどりつき注連縄の大岩に玉石の奇岩 祖たちに守られ守り来し釣石神社魂鎮めよと再生を祈りたりけり

(於 石巻市釣石神社)

海渡り大島登りきて目の前にぞ御神体ありてありありとおがむ 泰然と座する大岩の御神体生命の息吹きについまれにけり

(於 大島·大島神社)

夏合宿オプショナルツアー

『早池峰大償神社勧進神楽見学会』鳥飼 美和子(運営委員長)

東京自由大学と、民俗舞踊研究の第一人者・須藤武子先生とのご縁は今年で ちょうど10年。須藤先生が研究と交流の最重要地とされている岩手県花巻市の早 池峰大償神社の100年ぶりの建て替えを応援し、神楽を鑑賞し、神楽衆の方々と 交流しようという企画。須藤先生のお仲間と東京自由大学のメンバー合わせて60 人以上におよぶ観客であった。

神楽演目は、鳥舞、翁、天照五穀、山の神、狂言、権現舞など、豪華な番組。演 者の迫力の舞と囃子。長老の佐々木隆さんは84歳というが、山の神や権現舞の 瑞々しさ、颯爽たる風格は奇跡的。直会で唄われた「ごいわい」に土地に生きる男 たちの結びの魂が響いていた。

鎌田東二理事長は、大償神楽を「雄渾」と賞賛した。80年前、初めてこの神楽に接 した折口信夫は「山の神も夜半の神楽にこぞるらし 舞屋の外の闇のあやしさ」と詠 じた。折口をこの地に導いたのは芸能研究家の本田安次氏、須藤先生の師である。

翌日は40年~50年前の映像を見学。確かに社会や生活は変わった。しかし、神 楽そのものの中に潜入し、自己を捧げるように舞い歌い、精進し、生活と神楽を融 合することで、この早池峰の神楽は命脈を保ち、観る我々をも活性化してくれる。

夏合宿の最後、この東北と呼ばれる多様な地が、血が、埋蔵する闇のあやしさ と豊かさに触れることができた。

須藤先生と、早池峰大償神社、神楽の皆様に感謝申し上げます。

1日目 8/21(水)

福島駅集合一浪江町・能野川 蓮華院清水寺・林心滑住職に 町をご案内いただく → 南相馬 市(鹿島御子神社と多珂神社 参拝) → 相馬市(中村神社と子 負嶺神社を参拝) → 於・モン タナリゾート岩沼:東北大学教 授・鈴木岩弓氏と自然農法家・ 若松清一氏のお話を伺う。







8/22(金) 宮城県

名取市閖上地区富主姫神社・閖上湊神社参拝、同地供養塔にて鎮魂の祈り → 浪分神社参拝・荒浜供着 塔にて鎮魂の祈り → 七ヶ浜町 → 塩釜市: 塩竈神社・志波彦神社(延喜式内社) 参拝 → 松島見学 → 女川 能野神社参拝・鎮魂の祈り → 石巻市北 上町: 釣石神社参拝・鎮魂の祈り → 石巻市雄勝町: 葉川神社参拝 鎮魂の祈り → 於・石巻市雄勝町の亀山旅館、前雄勝法印神楽保存会会長・伊藤博夫氏のお話を伺う。





富主姫袖社にて参

8/23(土) 宮城県

早朝有志のみ:葉山神社の奥宮の石 (いその) 神社 (延喜式内社) 参拝 → 半島を巡り、海と町が一望で きる南三陸町高台公園で鎮魂の祈り → 気仙沼市陸前階上: 陸中国立公園岩井崎・伊勢浜見学 → 琴平 神社 → 地福寺参拝・鎮魂の祈り → 気仙沼市内:紫神社・金光教教会・五十鈴神社参拝、鎮魂の祈り

→ フェリー大島汽船・大島に渡り、竜舞崎見学 → 大島神社参拝 → 大島汽船 → 於・ホテル観 洋、金光教教会・奥原幹雄氏のお話を伺う。





4日目 8/24 (H) 岩手県

岩手県陸前高田市和田地区: 慈恩寺(臨済宗妙心寺 派)参拝・鎮魂の祈り、古山敬光住職のお話を伺う → 岩手県山田町荒神社参拝・弁天島遥拝 → 岩手県 釜石市: 鉄袖社 → 尾崎袖社参拝, 鎮魂の祈り。 // 川地区サポートセンターで大和田白治会長のお話を 伺う → 岩手県大槌町第9仮設住宅訪問・交流 → 宮 古市の於・浄土ヶ浜パークホテル、NPO岩手サンガ の会理事長・吉田律子氏のお話を伺う。



5日目 8/25(月) 岩手県

遠野に向かう→「遠野ふるさと村」を前遠野物語研究所所長・高柳俊郎氏にご 案内いただく → 花巻市の宮沢賢治記念館見学 → 新花巻駅にて解散



高柳敏郎先生

オプショナルツアー 8/25(月) $\sim\!26$ (日) \sim 早池峰大償神楽見学と交流 \sim

最終日8月25日、新花巻解散後のツアー。早池峰大償神楽を楽しみ、神楽衆と交流。民俗舞踊研究・須 藤武子先生と東京自由大学の共同企画







勧准袖楽を祝い 法螺貝吹奏奉納する 鎌田理事長(写直左 旦池峰大僧袖楽(写直)